

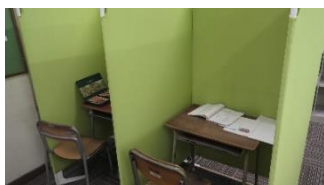
たかしょう

コネクトルームのご紹介



高倉小学校
には、コネクト
ルームという教
室があります。
いわゆる不登校

傾向の子、学校に行きにくい、教室に入りにくいという子が安心して過ごせる「居場所」です。大阪市の取り組みで SSR（スペシャルサポートルーム）というのですが、高倉小学校では SSR 以前から学校独自にコネクトルームを運用していたので、そのままコネクトルームと呼んでいます。写真のように、床はカーペットを敷き、ダイニングテーブルを置き、「教室」っぽさをできるだけなくして、自宅のリビングルームのようなアットホームな雰囲気をめざしています。



廊下からのぞかれにくい
窓の目隠しや、一人にな
れるパーテーションで仕
切った席を設置し、他の子

の目を気にせず過ごせるような工夫もあります。高倉小学校と高倉中学校は、大阪市の SSR モデル校なので教育委員会の予算でパーテーションなども購入できました。「まずは登校するだけ」、「自分のペースで学習する」、「教室に戻って1コマだけ授業に参加してみる」など多様な過ごし方に合わせたゾーン分けをしています。勉強に集中する「学習スペース」、本を読んだり絵を描いたりする「リラックススペース」、トランプなどで交流する「コミュニケーションスペース」などを設けています。ありがたいことに今年度から、コネクトルームには SSR 支援員さんが毎日います。そのような人の配置をくださった教育委員会には本当に感謝しています。コネクトルームは、「教室に入れない子の避難場所」ととどまらず、「力を蓄えるための居場所」として機能

させたいです。「教室に戻ることを前提とさせないでください」と教育委員会から指導もあり、「何もなくていい」を許容しています。決してあまやかしているのではなく、無理に勉強をさせたり、教室へ戻るようにプレッシャーをかけたりせず、ただ本を読んだり、ぼーっとしたり、自分のペースで過ごすことを全肯定する中で、その子が自分で動き始めるのを見守り支援していくイメージです。

「コネクトルームに来る」→「好きな時間だけ過ごす」→「少数で授業に参加する」など、子どもの状態やその日のやる



気に合わせた過ごし方を
自分で決めるようにして
います。コネクトルーム
に来た子は、その日1日
をどう過ごすのかの計画

を書きます。その通りに過ごせなくてもいいから、まずは今日1日の自分の学習計画を立てるというわけです。

世の中はまだ、「コネクトルームにいくとさぼりグセがつく」「あまやかしている」などの誤解が散見されます。将来は普通教室がコネクトルームの要素を取り入れて「教室らしくない教室」へと進化していくと思います。日本では、保護者に「子どもに普通教育を受けさせる義務」があります。欧米では「子どもに教育を受けさせる義務」はあるものの、その「場所」を学校にするか家庭にするかは保護者と子どもが判断する権利が保障されています。日本は子どもが学校に行かないと不登校という「状態」であると考えますが、欧米は「子どもの選択」であるとみます。いちばん大事なのは、「不登校＝問題行動」という古い価値観からの脱却です。不登校の子たちが「自分は自分のままでいいんだ」と思うためには、学校以外の学び方（フリースクールなど）を公的に認め、いろいろな学びの形を選択できるように制度を整えなくてはなりません。同時に、学校も教室も、コネクトルームにあるような様々な工夫を取り入れていって「誰もが居心地のいい空間」にしていきたいと思います。

